

平成28年度
総務委員会行政視察報告書

総務委員会委員長 後藤光秀

視察日：平成28年10月11日（火）～12日（水）

視察都市及び視察項目

1. 愛媛県松山市：若者と考える、投票率向上プランについて
2. 愛媛県今治市：サイクルツーリズムについて

1日目 愛媛県松山市

愛媛県松山市は、人口51万4,763人（平成26年4月）、229,973世帯からなる市となっている。18才選挙に伴い松山市では、参院選での選挙啓発として、若者の投票率向上プランを独自に取り組み、実際に投票率が平成25年の46.85%から比べて平成28年が54.14%（プラス7.29pt）となる投票率向上を達成した。

その取り組み内容は、平成25年7月に松山大学にて全国初となる大学内での期日前投票所の設置（20代前半の投票率+2.72pt）から、平成26年2月に「選挙コンシェルジュ」（1期生4人）を認定（導入）し、学生達による選挙CMの撮影・制作や大学内での街頭啓発活動、選挙公報をPRするための「選挙カフェ」の設置などを行い、その2ヶ月後の4月に行なわれた市議選で、20代前半の投票率は更に+0.63pt上回った。

また、SNSを活用した選挙までのカウントダウンイベントや大学生祭りでの模擬投票の実施、大学生向けのパンフレットに高校生向けのカウントダウンカレンダー、校内放送などを積極的に取り組み、若者達によるボランティアでの活動と、松山市選挙管理委員会とで行なっている投票率向上を狙う選挙啓発プロジェクトである。

若者と行政がいかにして投票率向上を狙い、選挙啓発に繋げるかはやはり現役学生達との連携したチーム編成が必要であると感じた。

実際に松山市での選挙コンシェルジュはチーム制となっており、プロジェクトリーダーを筆頭に選挙CMなど過去の取り組み価値を高める改善チーム、SNSやパンフレット広告発信する広告チーム、大学生を含む若者をターゲットとした企画チーム①、高校生をターゲットとした企画チーム②、主権者教育の補助を行なう主権者教育チームがあ

り、各チームから挙げた企画を選挙管理委員会が審査し、実行されている。

龍ヶ崎市で考えると流通経済大学生と選挙管理委員会との連携、企画が考えられるが、若者の政治不信が加速している昨今、選挙に行かない政治へ無関心な方々に対する意識改革として、選挙に「行かなきゃいけない」認識づくりをどう仕掛けることができるか、やはり実際の若者を巻き込んだ積極的な企画が重要だと考えさせられた。

当市ではまず何から行なうべきか、年代別で過去の投票率の推移を比較した上で、投票率向上を目指した選挙啓発の仕掛けづくり企画として今後、推進して参りたい。

2日目 愛媛県今治市

愛媛県今治市は人口164,322人（平成28年3月）、76,057世帯で愛媛県の北東部に位置し、タオルや縫製、造船、海運都市として重要性を高めている。

視察2日目は、「サイクリストの聖地」～瀬戸内しまなみ街道～として全国的、もはや世界的に知られているサイクリング施策を研修した。

瀬戸内しまなみ街道は、愛媛県と広島県尾道市を結ぶ全長59.4kmのルートとなっており、瀬戸内海に浮かぶ芸予諸島の島々を、景観に溶け込む9本の様々な形状・デザインの橋で結ばれ、最大の特徴は自動車だけでなく、「自転車や歩いてでも渡ることができる」ことであり、近年では国内外から多くのサイクリストが島旅を楽しまれている。

平成11年度にしまなみ街道が開通してから旧市町村単位でレンタルサイクル事業を開始し、試行錯誤の期間を経て平成21年度しまなみ街道10周年記念事業から本格的にサイクリングで売り出す機運が高まったとされる。平成23年度には愛媛県とGIANT社（自転車メーカー）とが連携開始し、愛媛県知事、今治市長ともにロードバイク生活を始める。また、平成25年度には「愛媛マルゴト自転車道作戦」として、知事をはじめ市町長、県議会議員、県幹部職員による（約60名）しまなみサイクリングを実施され、県知事や市町長らとのトップが実際に自転車で走ることによって、全員が自転車の良さを知ることができたと言う。

利便性・快適性の向上として、サイクルトレインやサイクルバスの運行から、サイクリング大会などのイベントを開催し、ハード面では道の駅など駐輪施設の設置、ロードバイク用のコース案内板としてブルーライン（車道の路側に推奨ルートを明示）を路面に標示する等、多くの方に分かりやすい案内を行なうとともに、利用者に対して十分に安全性を確保している。

担当職員による研修終了後、実際に総務委員会メンバーと共に約7キロのコースをレンタルサイクルで横断させて頂いて感じたことは、自転車道として整備された路面標示の分かりやすさや爽快さはもちろんのこと、何よりどこを見渡しても美しい景観に圧倒され、世界中からサイクリストの聖地として知られる意味を肌で痛感することができた。

片道約7キロのコース到達地点にある道の駅「よしうみいきいき館」では、道の駅を運営する「株式会社しまなみ」の経営方針やこれまでの取り組み実績などをご紹介頂き、龍ヶ崎市で現在進行中の道の駅プロジェクトに併せて、今後の参考として大きな収穫となる視察研修となったと考える。

牛久沼でのサイクリングロードや市内に可能な企画として、今後も前向きに推進して参りたいと改めて考えさせられたことと、牛久沼においては隣接する自治体との連携・協力のもとに進めなければならない作業も想定する中、龍ヶ崎市「牛久沼」として最大の景観をより魅力的に活用できるようサイクリストの必要性を意識した企画・構想としても、今後の市民サービスの発展と実現に向けて参考にして参りたい。